

音楽療法 古里に響け

HD

一関市滝沢出身の音楽講師千葉佑さん（81）は、神奈川県大和市では、全国の高齢者施設を回り、音楽療法の啓発を重ねている。10月31日は一関市花泉町の介護老人保健施設華松苑（菅原武久施設長、入所者81人）などを訪れ、合唱や踊りを楽しみながら入所者らの心身の障害の回復や認知症の予防を図った。

一関出身の講師・千葉佑さん



高齢者と一緒に歌いながら踊り、音楽療法を啓発する千葉佑さん（奥中央）

同施設では入所者とデイサービス利用者合わせて約100人が参加。千葉さんは横浜市の音楽療法士松岡留美子さん（61）らスタッフと協力して指導した。お年寄りは「もみじ」や「たき火」など秋の歌を歌ったり、ミュージックペルで合奏を楽しんだり、一緒に踊ったりして楽しいひとときを過ごした。

9月に入所した安倍あい子

高齢者施設訪れ啓発

効果に健康に
願う普及で全国身心

さん（78）は「音楽療法は初めて受けた。みんなと一緒に歌ってとても楽しく、元気になったと思う」と笑顔を見せた。音楽の力で心身の健康を促進する音楽療法は、全国の医療・福祉現場で幅広く取り入れられているが、本県は音楽療法士が少なく普及が課題となっている。

松岡さんは「精神面では、懐かしい歌を歌うと記憶や感情が呼び起こされ、一緒に歌うことでコミュニケーション機能の維持が図れる。身体的にも、呼吸のコントロールや食べ物をのみ込む機能の維持などの効果もある」と強調する。

千葉さんは一関二高から玉川大に進学。玉川学園中等部の音楽教諭や同大通信教育部の助教などを務めるとともに、40年ほど前から全国の学校で出前授業を重ね、音楽の楽しさを伝えてきた。

高齢者施設での音楽療法啓発も並行して続けてきたが新型コロナウイルス禍などで中断を余儀なくされ、古里への訪問は約10年ぶりとなった。

千葉さんは「一関は合唱のまちであり、市民に音楽文化が根付いている。訪問を重ねて職員の皆さんに音楽療法の価値を知ってもらい、日々の活動に取り入れてもらいたい」と願う。（太田代剛）